

## 平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	自然とつながる感性を育む幼児教育実践の体系化への試み		
プロジェクト期間	平成25年度		
申請代表者 (所属講座等)	笠原広一 (幼児教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>自然とつながる感性を育む幼児教育実践の体系化に繋がる予備的かつ基礎的研究を行った。研究内容は以下のとおりである。</p> <p>(1) 自然と感性を軸にした保育カリキュラムの仮説づくり 自然と感性の接点を持つ保育実践の類型を幼児教育実践の中から抽出し、自然と感性を軸にした保育カリキュラムの全体イメージの仮説を生成した。</p> <p>(2) 造形表現による自然と感性についての実践的調査 自然や地域を題材とした造形活動の実践として、張り子制作、保育実践講習、担当する講義・演習の分析を行い、自然体験と学習深化の構造を明らかにした。</p> <p>(3) 自然と感性を統合的に扱う先駆的な幼児教育実践の事例調査 自然と感性を統合的に扱った優れた保育を行っている先駆的な幼児教育実践の調査として、京都・環境教育フォーラムでの事例収集と事例発表、メルボルン大学アーリーラーニング・センター(ELC)での幼児教育実践のフィールドワーク調査を行った。 本研究により、自然とつながる感性を育む統合的な幼児教育実践の体系化に向けた研究が進んだ。</p>		
研究成果の概要	<p>(1) 自然と感性を軸にした保育カリキュラムの仮説づくり 自然とつながる感性が豊かに育まれる契機が有機的に繋がった保育実践の構成要素が6つのレイヤーによって分かりやすく捉えられた。</p> <p>(2) 造形表現による自然と感性についての実践的調査 [張り子制作] 制作された張り子には自然に関する様々なテーマや願いが込められた。郷土の自然素材や古の作者の思いや願いに直接的に触れて想像することができる郷土人形の制作は、暮らしの中の造形として郷土の自然とつながる感性を育む契機となりうる可能性が示唆された。 [保育実践講習] 自然物を単に工作の材料に見立てる以外の、自然について感じたことを表現し造形化する活動(Arts Based Approach)はイメージが湧きにくく、手法の具体的な開発が必要であることが分かった。 [担当する講義・演習の分析] 3科目の内容分析から自然体験と学習深化の構造が明らかになった。</p> <p>(3) 自然と感性を統合的に扱う先駆的な幼児教育実践の事例調査 [京都・環境教育ミーティングでの情報収集] 日本の自然観や森のようちえんの実践事例を学ぶと同時に、「幼児教育を学ぶ大学生の自然を感じる体験について—芸術系表現演習での取り組みから—」の発表を行い、ESD と幼児教育の実践と研究の最新の成果を理解することができ、具体的実践方法の開発が課題であることも分かった。 [メルボルン大学アーリーラーニング・センターのフィールドワーク調査] 同センターは幼児教育カリキュラムの基本に芸術を据える Arts Based Approach によって ESD における感性と理性の統合的な体験学習アプローチを行っており、その具体的方法を理解が得られた。 本研究によって自然と感性の統合的な幼児教育実践の体系化の具体的ステップが形成された。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [ <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック願います。 ]			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 ( 国内 ) : 日本美術教育学会 <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : 福岡教育大学紀要 その他 :